

## 優良賞

私にできること

真鶴町立真鶴中学校三年 春原穂高

私は助け合いと聞くと、今までみんな誰かに助けられて生きてきていて、誰もができることだと思いました。なぜなら、生まれたての頃は何もできない赤ちゃんからスタートするので、必ず親に助けられて生きてきているし、思いやりの心があればみんなが助け合えると思ったからです。友達と一緒に帰っていて、車に気づかず車にひかれそうになったとき友達が危ない！と教えてくれてひかれずにすんだこともありました。もし友達が危ないと教えてくれていなかったら、今私は怪我をしているか、生きていくかわかりません。

しかし、自分の生死に関わることばかりが助け合いとは思いません。日常生活の中でもたくさん助け合いがあるし、どちらかというと日常生活の方が助け合いが多いと思いました。自分が経験してきた中では、美術の授業中に絵を描いていて床に水をこぼしてしまったとき、友達や先生と一緒に水を拭いてくれました。あとはお腹が痛いときにカイロを貸してくれたり、相談に乗ってくれたり、一人でいるときや疲れているとき、体調が悪いときに話しかけてくれたりと、誰かが起こしたちよつとした行動で助かったというのが記憶に残っています。これは誰か特定の人が毎回してくれている訳ではなく、周りにいるみんなが助けてくれます。だから、私は助け合いは誰もができることだと思いました。

でも、私が助けたことがあるという記憶はあまり残っていません。なぜあまり記憶に残っていないのでしょうか。私が思うに、人が助けるといふ行動を起こすとき無意識に行っているからなのかと思いました。確かに私が普通にやってあげたことでも感謝してくれるし、こんな少ししか手伝ってあげてないのと思ったとき

でも感謝してくれるから、自分が無意識にやっていることでも相手が助かったと思うことは、全部助け合いになるのかと思いました。だから、自分が助けたという記憶はあまり残っていないくて、相手は助けられたことをよく覚えているのかもしれない。

これから生きていく中で、誰かしらと助け合いをしなければ生きていけないということを今回この作文を書いて、改めて気づきました。みんながみんな自分の手だけで生きていくことは不可能に近いと思ったので、当たり前前のことですが、困っている人や助けを欲している人がいたら、自分にできることはできる限りその人のため、みんなのために尽くしてあげたいと思いました。